

# 2012 ハワイ・ミドルステイ（9）

第9話「サブマリンの乗船体験とハワイ州の宝石 黒珊瑚」

早朝 短パンにTシャツ姿でベランダに出てみると、ひんやり ..... 今回のミドル・ステイも、早いもので今日と明日の2日間となった朝である ... 「特別な行動はしないで、のんびりしたいな」と考えているところだったが ... ちょっと心残りなことが一つあった。

それはサブマリンの乗船体験である。



そう思いついた次の瞬間には、ヒルトン・ハワイアンビレッジ・ワイキキの、ビーチサイドにあるキヨスクで、10:00 からの乗船予約を済ませていた。

am 09:30 サブマリン・シャトルポート乗り場のピアーに行き、チェックインを



する。

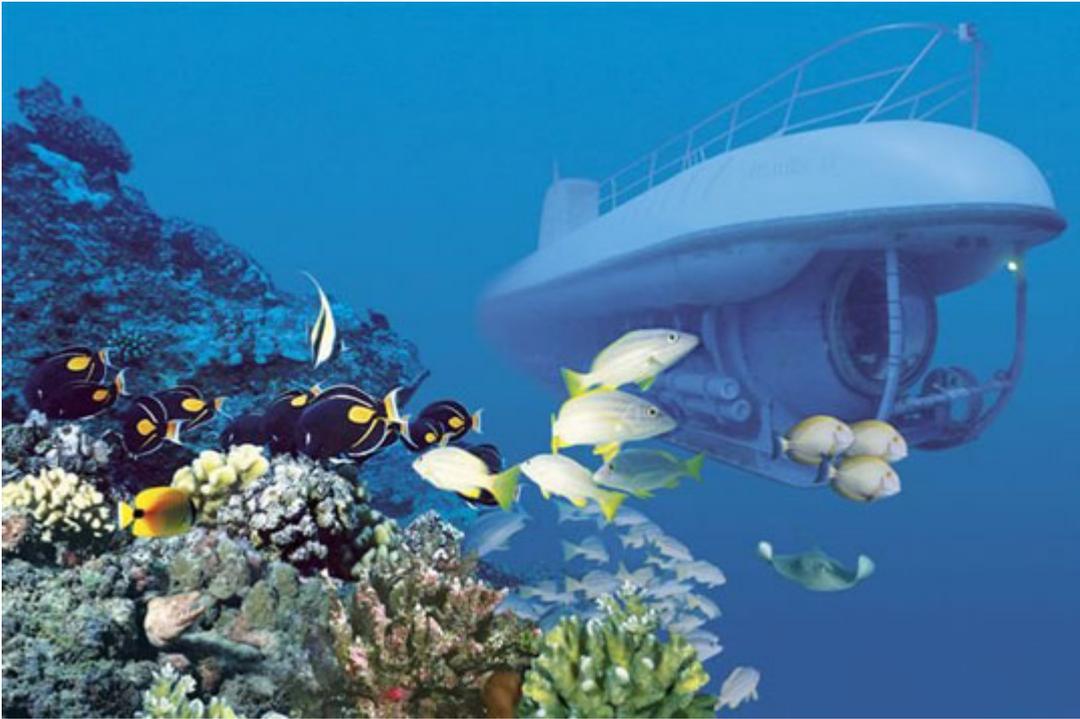
そこ

には既に、多くの日本人観光客が、行列をなしている。その大半は、新婚旅行のカップルらしき若者である。



これから乗

船体験をする「**アトランティス・サブマリン**」は、**ハワイの海、30メートルまで潜り、海中を散策するハワイ唯一の観光用潜水艦なのです**。水着になることもなく、洋服のまま、気軽にハワイの海の中の世界を探検できます。



この「**アトランティス・サブマリン**」は、1985年に、サブマリン（潜水艦）の運航を開始して以来、完璧な安全記録を維持しているそうです□

その安全をつかさどる主要システムは、すべて二重装備となっており、米国沿岸警備隊の規定に達したものだそうで、その安全性は米国船舶局、米国沿岸警備隊より認可を受けていると聞いています。

また、サブマリンの潜水可能深度とされている 54.86メートルより浅い、平均30メートルの深さを運航し、潜水中は常に、サポート船が海上からサブマリンを監視すると共に、常時通信を取り合って運航がなされているそうですよ。





□10:00 に、ヒルトン・ハワイアン・ビレッジのピア（棧橋）から、シャトルボート「ディスカバリー号」に乗り込み、沖合にいるサブマリンに向けて出発です□





□サブマリンが  
浮き沈みしている沖まで、およそ10分間のクルーズとなりました□



今日は、少し風が強く波が高いです。だが、良く晴れていて、海の色は綺麗です。  
こうして、船で沖に出てみると、随分多くの人たちが、サーフィンを楽しんでい



ます。

サブ

マリンが見えてきました。いよいよシャトルボートからサブマリンに乗り換えです。この沖で、サブマリンが白い泡を吹きだしながら浮上して来ました。

その横にディスカバリーが接岸し、潜水艦から、乗船していた観光客たちが降りて、このディスカバリー号に移ってきます。



それが済ん

だところで、次に私たちがサブマリンに乗船となります。



サブマリン

の内部は以外にも広く、通路はスムーズに移動出来ます。 海底探検の始まりです。

こうして、サブマリンは潜水して行く。



海の景色が  
どんどん変わっていきます。 潜水艦の窓の向こうの、手の届きそうな所に、ハワイのカラフルな魚たちが、気持ち良さそうに泳いでいる姿が観れます。

魚たちに導かれるように青い海の中を、サブマリンは静かに進んでいきます。  
快適な乗り心地です。



□潜水艦の中は  
エアコンが完備され、気圧も地上と同じに設定されているため、快適にツアーを楽しむことができます。 また、潜水艦は潜水中に海面の波に影響されることがないので、船酔いの心配はないと言われています□



□ワイキキ沖に

沈められた船や飛行機は、海の生き物たちにとって、最高の住処となっています。日本でもお馴染みの魚礁なのですが、その様子がちょっと違います。

□日本ではこのような魚礁や岩礁には、海藻がびっしりと付着するのに対し、ハワイの近海では海藻があまり繁殖しないというか、まったくありません□



□ というのも、この辺りの海水は温度が高いため、海藻の成長には適さないからだといわれています。 **ハワイの海に潮の香が足りないのも、実は海藻が少ないからなんだそうですよ。**

潜水艦で潜る一番深いポイントで、深度約30メートル。深度が増すごとに、水圧で太陽光線が遮断されるため、約12メートルの深度で赤色が茶色に見え始め、およそ30メートルでは黄色が緑色に変化してしまうのだそうです。

□つまり、海底の世界では、全てのものがブルー一色となっています。

この日はラッキーなことに、沈んだ船の甲板で、悠々とお昼寝をしている**ウミガメ**に遭遇しましたよ。そんなことも目にしながら、あっという間の**約40分間ほどの潜水ツアー**も、そろそろ終わりです。

潜水艦は浮上体制に入り、気泡を上げながら、あっという間に海面へ。

浮上の時に、窓から見える大量の気泡も見応えがありましたね。



迎えに来て

くれたシャトルボート「ディスカバリー号」に乗り換えて岸に戻ります。

その帰りの航路は、しばし楽しめるクルージングといった感じです。

...

これがまた気持ちが良いんです。



ダイヤモンド

ヘッドからワード、ダウンタウン方面までを見渡しながら、ゆっくりと、ヒルトンのピアーへとボートは帰って行きます。





上陸して直

ぐに、**ハワイ特産の「黒珊瑚」**の資料館に連れて行くと言うので、ついて行くこと

にしたんです。



世界最大のハワイアンジュエリー・ブランドが、実は、もともとダイビング・ショップだったと言うのをご存知でしょうか？

□**マウイ島ラハイナをベースに活動していたこのダイビング・ショップのダイバーが、1958年モロカイ島沖のダイビング・ツアー中に、偶然、世界的にも大変貴重なハワイアン黒珊瑚を発見したと言うのです**□

そしてその翌年、1959年からハワイアン黒珊瑚ジュエリーのデザインから生産、販売までを一貫して行うジュエリー会社となってゆき、それが今日の「**マウイ・ダイバーズ・ジュエリー**」と言う訳です。



その後、「マウイ・ダイバーズ・ジュエリー」は、オアフ島の、南東沖約370メートルの海底で、世界的にも貴重なピンク珊瑚と、ゴールド珊瑚を含むサンゴ礁群を発見、珊瑚の採取に、独自のサブマリンを導入した世界初のジュエリー会社となったというのです。

□現在では、珊瑚のジュエリーをはじめ、ダイヤモンドやパールなどのジュエリー、そしてハワイのモチーフを使ったメイド・イン・ハワイにこだわった本物のハワイアンジュエリーを製作 販売しています。

私たちは、この店に案内されたのである。

州の花は**黄色いハイビスカス**だし、州の木は**ククイ**という木だ。そして、州の宝石というのが**ブラック・コーラル、黒珊瑚**だそうです。

□黒珊瑚は古代ハワイアン時代から珍重されてきたそうです。邪気から身を守るための魔除けとして、また、航海や旅の安全を祈願するお守りとして信じられてきたのです。



こうした見学の帰り道、アップル・ストアーに立ち寄ったのでした。そこで勤めているある若い女性が「**ニューヨークはとても魅力的なところよ!!**」と言う。

そう言えば、まったく同じことを言う「ハワイ在住の人」を知っている。そのアップルの女性に「**怖い街というイメージはないの ??**」と聞いてみた。すると「**それは随分昔のニューヨークのことね**」と言う。さらにその娘が「**ハワイより安全で、人が優しい街よ!!**」と付け加えたんです。

また「**ニューヨークは都会 ハワイは田舎よね**」とも言った。

帰国が近まった... ホテルに戻って、荷物の取りまとめ作業をしなければならない。日本に帰ったら、ニューヨークでも考え直してみるかな~!! ...。



□ご覧下さい

まして、ありがとうございました。

次の最終話「第10話」でまた...お逢いしましょう!!

□□Mahalo□!!